

## 外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/01

### 主要国の株価にらみ

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	RBA理事会は声明に注目 予想レンジ: 83.50 ~ 86.80 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	NZ利上げ時期を占う上で失業率に注目 予想レンジ: 67.10 ~ 69.70 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	米株高が追い風に 予想レンジ: 11.40 ~ 11.80 円	6 - 7
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

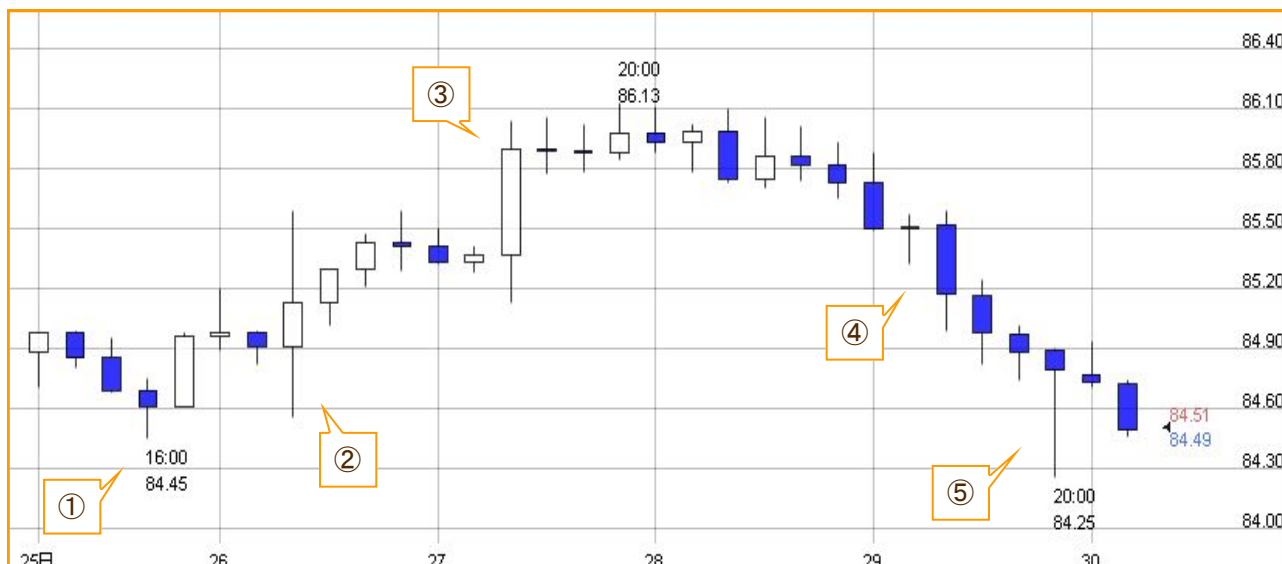


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD/JPY

## 豪ドル/円 7/25~29の主な推移



7/25 Monday	米国の債務上限引き上げ問題を巡る協議が難航する中、格付け会社ムーディーズが、ギリシャの格下げを発表し、ギリシャ債は「事実上100%」の確率でデフォルトになるとの見通しが示された。これを受けて欧州株が下落すると、豪ドル/円は一時84.45円まで下落した(①)。
7/26 Tuesday	米オバマ大統領の講演が行われるも、協議の進展を伝えるものではなかった事から、市場では米国の債務上限引き上げ問題について悲観的な見方が浮上。これを受けてドル/円が下げると、連れて豪ドル/円は84.45円まで下落。ただその後、ドル/円が突如80銭以上急騰すると、豪ドル/円も85.59円まで反発する場面が見られた(②)。
7/27 Wednesday	豪第2四半期消費者物価指数(CPI)は前年比+3.6%、豪準備銀行(RBA)が注視している基調インフレ率は前年比+2.7%となり、いずれも予想(+3.3%、+2.5%)を上回った。これを受け、一部で浮上していた豪州の利下げ観測は大きく後退し、豪ドル/円は90銭近く急騰して86.04円をつけた(③)。その後も米国の債務上限引き上げ問題に進展が見られない事を理由とするドル売りにより、豪ドルが対米ドルで上昇して変動相場制導入後の最高値を更新した事や、豪スワン財務相が「豪経済の中期見通しは堅調」と発言した事もあり、豪ドル/円は底堅く推移した。
7/28 Thursday	堅調に推移していたNYダウ平均株価が、米債務上限問題の混迷を嫌気してマイナス圏に転落し、引けにかけて下げ幅を拡大。これを背景にリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は一時85.32円に下落(④)。
7/29 Friday	米第2四半期国内総生産(GDP)・速報値は前期比年率+1.3%と、予想(+1.8%)を大きく下まわり、米経済の減速懸念が強まった。これを受け時間外のNYダウ平均先物が急落すると、豪ドル/円は一時84.25円まで急落(⑤)。その後ドル/円が77円の節目を割り込んで下げたことも手伝い、豪ドル/円は軟調に推移した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念
- ・豪州の利下げ観測

## 今週の見通し

先週の豪ドル/円相場は84.25円～86.13円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.8%の下落(豪ドル安・円高)となった。

今週2日、豪州ではRBAキャシュターゲットが予定されている。今回は政策金利の据え置き予想がコンセンサスとなっている。このため、市場の関心はその際に出される声明文にて、RBAが先月27日の豪第2四半期CPIをどう判断するかを集まっている。基調インフレ率がRBAの目標(年+2～3%)の上限に迫る中、豪州経済について強気な見通しが述べられるようだと、RBAの早期利上げ期待から豪ドルに買いが入ることが予想される。しかし一方で、欧米の債務問題や世界経済の減速懸念を背景に、利上げに消極的な姿勢を見せるようだと、利上げ期待が後退して豪ドル/円に再び下げ圧力が掛かる事も考えられる。

それ以外では、5日の米7月雇用統計を始め、米国では雇用関連の経済指標の発表が多数予定されており、市場の関心が集まりそうだ。先月29日の米第2四半期GDPが予想を大きく下回る結果となり、米経済の減速が懸念される中での発表となるため、予想を下回る結果が伝えられる場合は米株の下落につながりやすく、豪ドル/円は下値を意識した展開が予想される。(川畑)

(予想レンジ: 83.50～86.80 円)

## NZD/JPY

## NZドル/円 7/25~29の主な推移



7/26  
Tuesday

7時45分に発表されたNZ6月貿易収支は2.30億NZドルの黒字となり、予想(4.00億NZドル)より黒字幅が縮小した。これを受けNZドル/円は20銭弱値を下げる場面が見られた。その後10時から行われた米オバマ大統領の講演は、協議の進展を伝えるものではなかった事から、市場では米国の債務上限引き上げ問題について悲観的な見方が浮上。これを受けてドル/円が下げると、連れてNZドル/円は67.33円まで下落(①)。ただ、ドル/円が突如80銭以上急騰すると、NZドル/円も68.11円まで反発する場面が見られた。その後、市場では米国の債務上限引き上げ問題を手掛かりにドルを売る動きが強まり、NZドル/米ドルが上昇すると、NZドル/円は欧州市場にて、昨年5月以来の高値水準となる68.24円を記録した(②)。

7/27  
Wednesday

10時に発表されたNBNZ企業信頼感が43.7と前月(38.7)を上回った事や、その後10時30分に発表された豪第2四半期消費者物価が事前予想を上回り、豪ドル/円が急騰した事を背景に、NZドル/円は堅調に推移した(③)。

7/28  
Thursday

6時、NZ準備銀行(RBNZ)は市場の予想通り、政策金利の2.50%据え置きを決定した。なお、声明では「3月に行った利下げを長期間据え置く必要はほぼない」などと、利上げの必要性を指摘したものの、NZドル高に対して懸念を伝えたことにより、NZドル/円の値動きは限定的となった(④)。

7/29  
Friday

米第2四半期国内総生産(GDP)・速報値は前期比年率+1.3%と、予想(+1.8%)を大きく下回り、米経済の減速懸念が強まった。これを受け時間外のNYダウ平均先物が急落すると、NZドル/円は一時66.82円まで急落(⑤)。その後は予想を下回るGDPを受けてドル売りが強まり、NZドル/米ドルが変動相場導入後の最高値を更新した事を手掛かりに、NZドル/円は67円台半ばへと反発した(⑥)。

# NZD / JPY

## 上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・NZの利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・NZの利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

## 今週の見通し

先週のNZドル/円相場は66.62円～68.24円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.4%の下落(NZドル安・円高)となった。

今週4日早朝、NZでは第2四半期失業率の発表が予定されている。先月28日のNZ準備銀行の声明では「3月に行った利下げを長期間据え置く必要はほぼない」など、今後の利上げを示唆する内容が示されていた。このため、先月発表されたNZ第1四半期GDPの上ブレに続き、失業率の低下が示されるようだと、市場ではNZの早期利上げ期待が高まり、NZドル/円は買い優勢の展開が予想される。

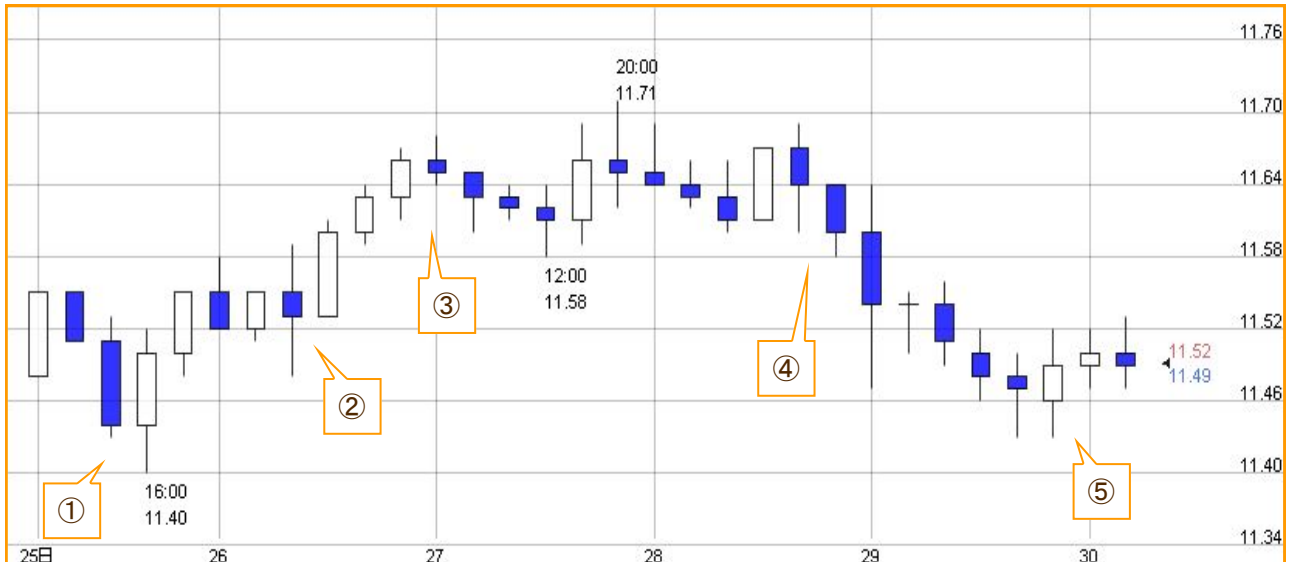
先週は米国の債務上限引き上げ問題を巡る不透明感から全般的にドル売りが進むと、ドル安・NZドル高の流れを受けてNZドル/円は上昇した。今週もこの問題が決着するまでは、NZドル/円は堅調な推移が予想される。また、この問題が決着した場合、今度はそれまで下げていたNYダウ平均の反発が予想され、NZドル/円には上昇圧力がかかる可能性がある。

それ以外では、5日の米7月雇用統計を始め、米国では雇用関連の経済指標の発表が多数予定されており、市場の関心が集まりそうだ。先月29日の米第2四半期GDPが予想を大きく下回る結果となり、米経済の減速が懸念される中での発表となるため、予想を下回る結果が伝えられる場合は米株の下落につながりやすく、NZドル/円は下値を意識した展開が予想される。(川畑)

(予想レンジ: 67.10～69.70円)

## ZAR/JPY

## ランド/円 7/25~29の主な推移



<b>7/25 Monday</b>	米国の債務上限引き上げ問題を巡る協議が難航する中、格付け会社ムーディーズが、ギリシャの格下げを発表し、ギリシャ債は「事実上100%」の確率でデフォルトになるとの見通しが示された。これを受けて欧州株が下落すると、ランド/円は一時11.40円まで下落した(①)。
<b>7/26 Tuesday</b>	米オバマ大統領の講演が行われるも、協議の進展を伝えるものではなかった事から、市場では米国の債務上限引き上げ問題について悲観的な見方が浮上。これを受けてドル/円が下げると、連れてランド/円は11.48円まで下落。ただ、ドル/円が突如80銭以上急騰すると、ランド/円も11.59円まで反発(②)。その後、市場では米国の債務上限引き上げ問題を手掛かりにドルを売る動きが強まり、ドル/ランドが下落(=ランド高)すると、NY市場にてランド/円は11.68円まで上昇した(③)。
<b>7/28 Thursday</b>	18時30分に南アフリカ6月生産者物価指数が発表され、前年比+7.4%と予想(+6.9%)を上回った。しかし、20時30分に発表された南ア第2四半期失業率は25.7%と、前回(25.0%)や事前予想(24.9%)よりも弱い結果となった。ただ、いずれも市場の反応は薄かった(④)。
<b>7/29 Friday</b>	21時に発表された南ア6月貿易収支は49億ランドの黒字と、予想(10億ランド)を上回る黒字となったものの、市場の反応は限定的であった。その後21時30分に発表された米第2四半期国内総生産(GDP)・速報値は前期比年率+1.3%と、予想(+1.8%)を大きく下まわり、米経済の減速懸念が強まった。これを受け時間外のNYダウ平均先物が急落すると、ランド/円は一時11.43円まで下落(⑤)。その後は予想を下回るGDPを受けてドル売りが強まり、ドル/ランドが下落した事を手掛かりに、ランド/円は小幅に反発した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す
- 主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・南アの利上げ観測の浮上
- ・日本の円売り介入

## 下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる
- 主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷
- ・南アの利下げ懸念の浮上

## 今週の見通し

先週のランド/円相場は11.40円～11.71円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.8%の下落(ランド安・円高)となった。

先週は米国の債務上限引き上げ問題を巡る不透明感から全般的にドル売りが進むと、ドル安・ランド高の流れを受けてランド/円は上昇した。今週もこの問題が決着するまでは、ランド/円は堅調な推移が予想される。また、この問題が決着した場合、今度はそれまで下げていたNYダウ平均の反発が予想され、ランド/円には上昇圧力がかかる可能性がある。それ以外では、5日の米7月雇用統計を始め、米国では雇用関連の経済指標の発表が多数予定されており、市場の関心が集まりそうだ。ただ、先月29日の米第2四半期GDPが予想を大きく下回る結果となり、米経済の減速が懸念される中での発表となるため、予想を下回る結果が伝えられる場合は米株の下落につながりやすく、ランド/円は下値を意識した展開が予想される。

なお、先月20日に発表された南アフリカ6月消費者物価指数では、同国にてインフレが進行している事が示され、29日発表の6月貿易収支は事前予想を上回る黒字となった。しかし、同日に発表された南ア第2四半期失業率は前回から悪化しており、市場での「SARBの次の一手は利上げ」との見通しに変化はないと見られるものの、現状はインフレの進行を理由に南ア準備銀行(SARB)が利上げに動く状況ではなさそうだ。(川畑)

(予想レンジ:11.40～11.80円)

## 経済指標カレンダー (8/1~4)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/1	—		シドニー休場(バンクホリデー)、トロント休場(シビック・デー)		
(月)	17:30	◎	(英) 7月PMI製造業	51.3	51.0
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月失業率	9.9%	9.9%
	23:00	◎	(米) 7月ISM製造業景況指数	55.3	55.0
	23:00		(米) 6月建設支出 [前月比]	-0.6%	-0.1%
8/2	10:30		(豪) 第2四半期住宅価格指数 [前期比]	-1.7%	-1.0%
(火)	10:30		(豪) 6月住宅建設許可件数 [前月比]	-7.9%	+2.5%
	13:30	◎	(豪) RBAキャシュターゲット	4.75%	—
	16:15		(スイス) 6月実質小売売上高 [前年比]	-4.1%	—
	16:30		(スイス) 7月SVME購買部協会景気指数	53.4	52.8
	17:30	◎	(英) 7月PMI建設業	53.6	53.2
	18:00		(ユーロ圏) 6月生産者物価指数 [前年比]	+6.2%	+6.0%
	21:30		(米) 6月個人所得 [前月比]	+0.3%	+0.2%
	21:30		(米) 6月個人支出 [前月比]	±0.0%	+0.2%
	21:30		(米) 6月PCEデフレーター [前年比]	+2.5%	—
	21:30		(米) 6月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.3%	+0.2%
	21:30		(米) 6月PCEコア・デフレーター [前年比]	+1.2%	+1.4%
8/3	10:30	○	(豪) 6月貿易収支	+23.33億AUD	+22.00億AUD
(水)	10:30	◎	(豪) 6月小売売上高 [前月比]	-0.6%	+0.3%
	17:30	◎	(英) 7月PMIサービス業	53.9	53.5
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月小売売上高 [前月比]	-1.1%	+0.5%
		○	(ユーロ圏) 6月小売売上高 [前年比]	-1.8%	-0.9%
	21:15	◎	(米) 7月ADP全国雇用者数	+15.7万人	+10.0万人
	23:00	◎	(米) 7月ISM非製造業景況指数	53.3	54.0
	23:00		(米) 6月製造業受注指数 [前月比]	+0.8%	-0.6%
8/4	—		日銀金融政策決定会合(~5日)	—	—
(木)	07:45		(NZ) 第2四半期失業率	6.6%	6.5%
	19:00		(独) 6月製造業受注 [前月比]	+1.8%	-0.2%
	20:00	○	(英) BOE政策金利発表	0.50%	—
	20:45	◎	(ユーロ圏) 欧州中銀金融政策発表	1.50%	—
	21:30	◎	(米) 7/29までの週の新規失業保険申請件数	39.8万件	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## 経済指標カレンダー (8/5)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/5	—	○	(日) 日銀金融政策決定会合(4日～発表)	0.00-0.10%	—
(金)	14:00		(日) 6月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	106.3	108.6
			(日) 6月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	99.6	103.5
	16:15		(スイス) 7月消費者物価指数 [前年比]	+0.6%	+0.7%
	17:30	○	(英) 7月生産者物価指数 [コア:前年比]	+3.2%	+3.2%
	19:00	○	(独) 6月鉱工業生産 [前月比]	+1.2%	+0.1%
	20:00	◎	(加) 7月失業率	7.4%	7.4%
	20:00	◎	(加) 7月雇用ネット変化	+2.84万人	+2.00万人
	21:30	◎	(米) 7月非農業部門雇用者数	+1.8万人	+9.5万人
	21:30	◎	(米) 7月失業率	9.2%	9.2%
	21:30		(加) 6月住宅建設許可 [前月比]	+20.9%	-5.0%
	23:00		(加) 7月Ivey購買部協会指数	68.2	64.6
	28:00		(米) 6月消費者信用残高	+50.77億USD	+50.00億USD

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。